

現場と経営つなぐ司令塔に

シー・アイ・エム総合研究所 富田 英史社長

新社長

Interview with New Leader

に聞く



とみた・ひでし

1999年慶応義塾大卒。システム会社での開発経験を始め、日本ビューレットパカードや日本オラルクでコンサルティング部門の部門長を歴任。直近では政府系ファンド出資のランドデータバンクの立ち上げに専務執行役員として尽力。愛知県出身、46歳、公認会計士。

「現場と経営層をつなぐ司令塔になりたい」。昨年10月、生産管理システム「Dr. 工程」を手掛けるシー・アイ・エム総合研究所の社長に就任した。具体的なロードマップは目下策定中だが、

アは半導体工場の自動制御システムの開発から、重ねてきた。外資系企業で、ITのコンサルティング

Dr. 工程の次の世界描く

社会人としてのキャリア 現するためにキャリアを以降は、その思いを美

ルティンクにも従事した。入社前には、建設と

金融を組み合わせたテックベンチャーの立ち上げにも参画した。

「IoTやAIで様々な情報を集め、分析するインフラはできつつある。重要なのは、これらの情報から何を導き、どう動くかだ。最適な経営判断を下せるための情報を提供できるようにしたい。」

目指すべき姿は明確だ。社長に就いた片井功前社長も「面接で会った時、次のシー・アイ・エム総研を任せるのは、この人しかいないと思うた。Dr. 工程の次の世

界観を描いてもらえる人」と全幅の信頼を寄せた。Dr. 工程の次の世

界観を描いてもらえる人」と全幅の信頼を寄せた。Dr. 工程の次の世

界観を描いてもらえる人」と全幅の信頼を寄せた。Dr. 工程の次の世

「もっと生かせるのではないか」と昨年8月に入社。「Dr. 工程が非常に魅力的」に映ったことも入社を決めた理由だ。「生産管理は製造業の核中の核。カスタマイズや内製化が求められるがちな領域で、パッケージシステムとして受け入れられていることはありがたいこと」と評価する。

「とはいえ「また百点ではない」と冷静に分析。その目指す姿が冒頭の司令塔の役割だ。「製造業では経営層の意図と現場の最前線の活動にはギャップがある。Dr. 工程はその溝を調整し、両者をつなげる司令塔のような役割を担うため最適なツール」とみる。